令和6年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立六郷中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学年問わず基礎的な文法を定着させるためのドリルアクティビティを増やすことができた。
- ・「読むこと」に対する取り組みを充実させることができた。

(2) 課題

- ・基礎・基本の定着が不十分である。
- ・「聞くこと」に対する活動が不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。	/	/
第2学年	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。	/
第3学年	正答率は目標値を下回り、区、全国平均も下回る。全体的に低い水準である。	正答率は目標値を上回る。区平均、全国平均をやや下回る。	正答率は目標値を上回る。区平均をやや下回り、全国平均を上回る。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を大きく上回り、区平均ともほぼ同様である。 アルファベットの読み（聞く）の正答率は90%を超える。	正答率が目標値を上回り、区と全国平均とわずかに下回る。	目標値・区・全国の全ての数値を下回る。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率が目標値を約4ポイント上回り、全国平均より約2ポイント上回るが、区平均より約1ポイント下回っている。	正答率が目標値を約3ポイント上回り、全国平均を約4ポイント上回るが、区平均を約2ポイント下回る。	正答率が目標値を約2ポイント上回り、全国平均を約6ポイント上回るが、区平均を約3ポイント下回る。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正答率は目標値をやや上回り、区、全国平均を下回る。語彙の知識・理解において、全国、区の平均を下回る。	すべての項目において大きく下回る。特に、場面に応じて書く英作文において平均を下回る。	目標値を大きく下回り、全国平均をやや上回る。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や文法を、小テストやドリルアクティビティで確認し、基礎の定着を図る。「書く」「話す」についても基本的な活動を通して定着させる。	毎授業の帯活動に「話す」活動を取り入れ、スモールステップで定着を図る。「聞く」「書く」「話す」技能を用いる課題を毎授業で設定する。	生徒同士で話し合う場面や自分自身について表現する課題を多く設ける。定期考査後などに、自分の現状を振り返り、改善する課題を設ける。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や基礎的な文法をドリルアクティビティを通じて繰り返すことで基礎の定着を図る。「書く」「話す」についても基本的な活動を通して定着させる。	毎授業の帯活動に「話す」活動を取り入れ、定着を図る。自分自身のことや周囲のことについて「聞く」「書く」「話す」技能を用いる課題を毎授業で設定する。	生徒同士で対話する場面や自分自身について表現する課題を多く設ける。定期考査後などに、自分の現状を振り返り、改善する課題を設ける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単語や文法を、小テストで確認し、復習を行うことで基礎の定着を図る。「書く」についても入試対策をしつつ、日常的话题についての活動を取り入れる。	毎授業の帯活動に「読む」活動を取り入れ、定着を図る。自分自身のことや、その他のことについて表現する時間をおおく設け評価につなげる	生徒同士で話し合う場面や自分自身について表現する活動を毎授業に設定する。